

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	日置 佑輔
子ども学科	助教
学科以外の兼務職	入試広報課入試広報係

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラム I（初年次教育）	子ども	1
キャリアデザイン	子ども	1
健康とスポーツ	子ども	1
体育科概論	子ども	1
体育科教育法	子ども	2
教育情報処理	子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	無
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	委員
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
--------	-------

助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	○ 教育を通じて地域社会で活躍できる人材を育成するため、基本的なコミュニケーション能力や問題発見・課題解決能力を身につけることができるよう、また、教育に必要な専門的知識および技能を身につけることができるよう指導する。 ○ 学術研究、教材研究を継続的に実施し知識をアップデートすること、教育に関して常に省察と改善を繰り返すことで、より優れた授業・教育を実践できるよう努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	○ 問題発見・課題解決力を身につけるためには、その背景にある基本的な知識が必要不可欠となる。このため、授業ではまず基本的な知識についての解説を行い、その後、獲得した知識等を活用し、さらに深められるようなグループワークや模擬授業等の活動を実施した。また、毎回の授業では、ディスカッション等の活動を実施し、知識の獲得を促すよう工夫した。 ○ 「体育科概論」「体育科教育法」の授業では、体育科教育に関する基礎理論や各運動種目の基本的な技術について身につけさせるとともに、最新の教材を用いた授業実践例や、ICTを活用した授業実践例を紹介しディスカッションを行い、体育授業についての理解を深めるよう工夫した。
授業以外（学生支援等）	○ 担任面談および面談時以外にも、できる限り学生との対話や相談等への対応を行い、必要な支援を講じることができるよう努めた。 ○ 学会大会への参加および学術研究・教材研究を継続的にを行い、体育科教育および運動・スポーツに関する最新の研究動向を調査し、自らの知識および授業内容のアップデートに努めた。 ○ 入試広報課入試広報係として、オープンキャンパスや高校ガイダンスにおいて学生の募集活動を行った。大学の特徴等について詳しく説明するとともに、高校生からの相談・質問には丁寧に回答を行った。また、教員と兼職という立場を活かし、普段の学生の様子や授業の様子等も伝え、具体的なイメージを持ってもらえるよう工夫しながら募集活動を行った。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	○ 理論理解とその後のグループワーク等という授業方法については、グループワークで解決すべき課題について明確に捉え、解決に向けた密度の高い活動ができていたこと、授業アンケートにおいて授業内容の理解度の値が高かったことから、授業の内容について深く理解を促すことができた。 ○ 授業実践例を紹介だけに留めず、ディスカッションを行うことで、各教材や教具の強み・弱みなどについて検討し、将来体育授業を実践する際のイメージを持たせることができた。
授業以外（学生支援等）	○ 担任面談や相談時には、必要に応じてアドバイスをを行った。 ○ 秋学期の授業では、運動・スポーツに関する最新の研究を盛り込んだ授業内容で授業を実施した。 ○ 文教ナビの活躍もあり、オープンキャンパスのアンケートでは毎回高い評価を得ることが出来た。

5. 目標（今後どうするか）

授業	○ 授業方法については、上記の方法を今後も上手く活用しながら、学生の理解を促すことが出来るよう、また実践力を身につけることが出来るように工夫する。 ○ 授業内容（資料）については、学生の理解が難しい内容も一部あったために、データやイラスト等を活用し、より理解しやすい資料を作成できるよう努める。
授業以外 （学生支援等）	○ 引き続き、面談や相談等において学生との対話を続け、必要な支援を講じることが出来るよう努める。 ○ 学術研究・教材研究についても引き続き取り組んでいく。特に、学習指導要領の改訂が近く行われる予定のため、最新の動向を注視しながらより良い授業・教育を提供できるよう取り組んでいきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

担当業務	子ども学科としての業務および入試広報課としての業務について、各業務をきちんと把握し、計画的に進めるよう努めた。
広報・募集	OC の運営および大学 SNS の管理・発信を行い、広報・募集活動に取り組んだ。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上